

環境に配慮した消毒作業

～水稲種子温湯消毒受託作業～

常盤基幹支店で水稲種子温湯消毒の受託作業が始まった。3月18日から27日まで、JA職員や作業員による手作業で一日に約3.3トンを行った。平成30年は生産者252人が申し込み、つがるロマン24トン、青天の霹靂6トンなどの種子消毒を行った。

同支店施設内の常盤農産物加工センターでは20日、JA職員ら8人がネットに入れた種もみ(5キロ)を4袋ずつ持ち、60度の温湯に手作業で攪拌しながら10分間浸し、その後冷水で冷やす作業を繰返し行っていた。佐々木篤営農指導係長は「農業の持つ多面的機能が十分発揮され、生物多様性を確保することが地域貢献にもつながる」と話した。



温湯から種もみを取り出すJA職員ら

ネズミ駆除に期待

～フクロウ巣箱設置～

尾上支店管内の小野智栄さん、佐藤竹悦さん、佐藤佳克さんの生産者3人は3月13日、平川市金屋のリンゴ園地3カ所にフクロウの巣箱を初めて設置した。

フクロウはリンゴの木に被害をもたらすネズミを駆除する。生産者3人は共同で材料を準備し、巣箱3台を手作りした。小野智栄さんは「近くの神社でフクロウの目撃情報がある。巣箱に入って、フクロウが住みつく園地になり、ネズミ駆除につながってほしい」と期待する。



巣箱を設置する生産者3人

地域活性化を目指した活動展開へ

～JA津軽みらい女性部第9回通常総会～

JA津軽みらい女性部(工藤美津江部長)は3月28日、本店で第9回通常総会を開き、女性部員ら約230人が参加した。

工藤部長は「食育を学んだ講演会や青年部も参加したスポーツ交流会、エルダーミセスやフレッシュミズなど各交流会で部員相互の親睦を図るなど活発に活動した。他団体と連携、共有し、心一つにみんなで結集し、JAとともに活動していきましょう」とあいさつ。工藤友良組合長は「活動に参加し、生きがいや息抜きをしながら、地域の活性化を目指してほしい」と話した。

総会では地域に根ざした活動展開と地産地消運動を継続しながら環境問題や食農教育、JA運営への積極的な参画運動に取り組むことを盛り込んだ事業計画書(案)など全3号議案が可決された。

記念講演では歌の音楽セラピストの吉岡リサさんを講師に迎え、「歌を歌って笑顔で口腔エイジングケア」をテーマにリズムカルな方法で身体若返りに挑戦した。



あいさつする工藤部長



熱唱する吉岡リサさん